

## 「石川幾太郎の鉄道経営」第3弾

5月例会は、イルミンにて8名参加で行ないました。情報交換の後、杉崎一雄氏から、武蔵野鉄道の吾野線延長と石灰開発についての報告がありました。吾野での石灰採掘事業がもくろまれた時期は、青梅鉄道と五日市鉄道の石灰事業も進められており、この3つの鉄道事業は日本一のセメント会社浅野セメントを通じてリンクしていたということです。残念なのは、経営についての幾太郎社長の言葉や、子孫の語りが全く残っていないこと。しかし、武蔵野鉄道役員一覧（第1回目資料）で、それぞれの役員がどのような立場の人なのか丁寧な説明があり、藤山グループから浅野セメント、箱根土地系へ移っていく力関係の中で、幾太郎が誰を頼りにしたかなどを窺い知ることができました。

### 川越市立博物館の特別展で

【投稿】発智金一郎（会員）

### 石川家の人々とも縁のある発智庄平が取り上げられます

川越市立博物館で「東京2020オリンピック・パラリンピック競技会」に向けた記念特別展「霞ヶ関カンツリー倶楽部と発智庄平～川越にオリンピックがやってくるまで」が7月17日（土）から9月5日まで開催されます。発智庄平（元治元～昭和11年）は繁田武平（豊岡町長）の兄。石川幾太郎は明治27年、庄平が設立した日本弘道会黒須支部に入会しました。幾太郎の弟和助は明治44年、庄平と共に廃娼運動を実施。幾太郎の長男民三は庄平が校長をしていた黒須高等小学校を卒業し、昭和2年卒業生による庄平の銅像建設時に建設副委員長を務めています。幾太郎の弟白井幸助の長男良輔と結婚した打木国代（小説家打木村治の姉）は庄平の親戚で、結婚の時お世話になった、という関係があります。

### みなさんの投稿を募集します！

読む会ニュースの中に、投稿コーナーを作ることになりました。会員の皆さんが、知りたいと思っていることや知らせたいこと、感想などを書いてお寄せください。自己紹介や石川一族の人物エピソードも大歓迎♡ 400字以内なら、短くてもOKです！

【送り先】染井代表へ郵送（封筒の住所へ）、または三浦会員までメール [mkumiko569@gmail.com](mailto:mkumiko569@gmail.com)

期 日 2021年 6月27日（日） 14:00～16:00

『石川家の人々』を読む会次回は…

新型コロナウイルス蔓延の状況によっては例会中止となる可能性があります。その場合は電話か本紙で連絡します。

1. 会場 市民活動センターイルミン

2. 内容 『銀の糸と二つの十字架』より、女工さんの賃金について 報告者 杉崎一雄会員

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

\*次回の日程調整を行いますので、御自身の予定表をお持ちください。

コロナ禍の中、会費やご寄付をいただいております。ありがとうございます！！

# 「石川家の人々」を読む会

SINCE 2009. 5. 13.

147

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

## NEWS

号

\* 発行責任者: 会長・染井佳夫 (090-8775-6569), 幹事・齋藤祐司 (090-2326-7517), 三浦久美子・会計担当

## 石川組の賃金は高かった 女工への長期投資がカギ

6月例会は、イルミンにて8名の参加で行ないました。情報交換の後、杉崎一雄氏から、著書『銀の糸と二つの十字架』で紹介した女工さんの賃金について報告がありました。

県内では最も賃金が高かったといえる石川組の女工さん。石川組の糸はすべて優等格「矢島」で、量も質も高かったのは、女工さんの能力に拠ります。質が賃金に反映される仕組みや、養成所・家庭学校といった教育施設もありました。大正元年の「工場調」からは、明治39~41年が石川組のリスタートにみえることや、この調査により明治天皇が川越工場に侍従を遣わしたり、幾太郎が緑綬褒章をもらうことになったことを指摘。戊申詔書を冠した事業が複数あり、その影響の程度や具体的な内容はわからないものの、女工さん主体の会社だということは言えると述べました。

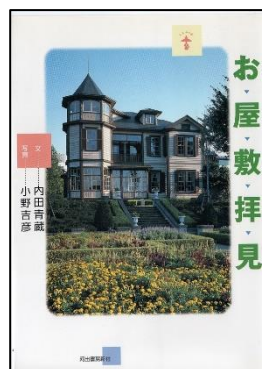
※当日参加していない会員の皆さんには、西洋館が掲載された『晴耕雨読』『入間市特別版』を同封します。(『晴耕雨読』は山梨県内を中心に配布されているフリーマガジンです)

## 【投稿】 書籍で西洋館見学 齋藤裕司(会員)

今年の7月7日で旧石川組製糸西洋館(以下、「石川西洋館」という。)が上棟百周年を迎える。この西洋館は贅を凝らしており、建物の説明を聞いても感心するばかりだ。この建物を取り上げた書籍もいくつか刊行されている。

西洋館が掲載されている書籍を一冊紹介すると、株式会社エクスナレッジ刊「東京建築遺産さんぽ」(大内田史郎著)がある。東京と東京近郊の近代建物が写真を中心として紹介されている。

また、西洋館は掲載されていないが、日本の洋風建築の歴史、構造がよく分かる書籍に河出書房新社刊「お屋敷拝見」(内田青蔵著)がある。この本を読んでおくと、西洋館見学の折に、建物を一層理解できるのではないだろうか。



### ★みなさんの投稿(お便り)を募集します★

購読会員の皆さんの近況やご感想などもお待ちしております!!

自己紹介や石川一族の人物エピソードも大歓迎。短くてもOKです!

【送り先】 染井代表へ郵送(封筒の住所へ)、または三浦会員までメール [mkumiko569@gmail.com](mailto:mkumiko569@gmail.com)

### 『石川家の人々』を読む会次回は…

期 日 2021年 7月25日(日) 14:00~16:00

新型コロナウイルス蔓延の状況によっては例会中止となる可能性があります。その場合は電話か本紙で連絡します。

1. 会場 黒須公民館(いつもと場所が違います!)
2. 内容 『銀の糸と二つの十字架』より、下村とくさんについて 報告者 杉崎一雄会員

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

\*次回の日程調整を行いますので、御自身の予定表をお持ちください。



# 「石川家の人々」を読む会

SINCE 2009. 5. 13.

148

号

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

## NEWS

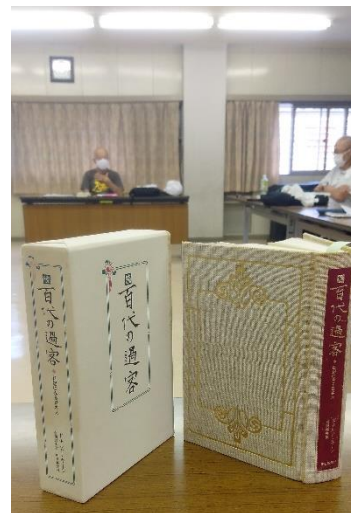
\* 発行責任者: 会長・染井佳夫 (090-8775-6569), 幹事・齊藤祐司 (090-2326-7517), 三浦久美子・会計担当

## 13歳で赤十字の看護婦養成部に！

### 地元でも無名の町田とく

7月例会は黒須公民館にて9名の参加で行いました。情報交換の後、杉崎一雄氏から、著書『銀の糸と二つの十字架』のもう一人の主人公、下村とく（旧姓町田）について説明がありました。

ドナルド・キーン『続 百代の過客』掲載「下村とく日記」。名栗村から出て看護婦になり、アメリカに渡り産婆になるも、戦時中は強制収容所に入れられるという波乱の人生を歩んだ彼女は、キーンが取りあげた唯一の無名の日本人です。杉崎氏が日記の未公開部分を紹介したいと思ったのが著書執筆のきっかけでした。残念ながら日記の所在探しは頓挫しましたが、地元でも知られていないとくの存在について、個人情報に壁に阻まれつつ、育った村や関係者、赤十字の資料などを調べたそうです。とくの関係図や前半生の年表なども作られ、幼少期からのあゆみに迫った発表でした。



### 【お知らせ1】

**蘭方医 安藤文澤 と  
外交官 安藤太郎 父子 特別展**

**8月22日(日)～29日(日) 高麗神社にて開催**

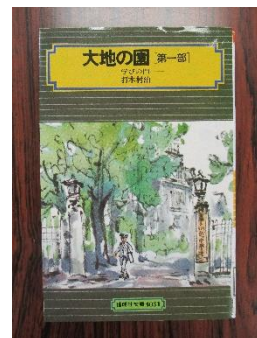
当会7月例会では、埼玉西部の医者や先進治療について紹介されましたが、安藤文澤もその一人です。太郎は禁酒運動の講演で豊岡にも来ています。

(HPより) 激動の幕末から明治期へと時代を駆け抜けた安藤文澤・太郎父子。その時代背景や蘭方医学と人との出会い、天然痘との戦い、地域医療への貢献など、文澤の歩んだ道を解説。また函館戦争から外交官へ、そして大酒豪から禁酒運動家への変貌など、太郎のユニークな人物像と功績を文献や人物交流などを紐解き紹介する。

### 【お知らせ2】

**『大地の園』が小中学校に**

7月7日、入間市役所にて、染井佳夫氏が打木村治著『大地の園』を、市内すべての小中学校に4セットずつ寄贈しました。子どもたちが地域の歴史に目を向けてもらえればと話しています。



**【訂正】**147号に掲載した「書籍で西洋館見学」に誤りがありました。お詫びして訂正します。

斎藤裕司→齊藤祐司

4、7、9行目 西洋館→石川西洋館

期日 2021年8月29日(日) 14:00～16:00

『石川家の人々』を読む会次回は…

新型コロナウイルス蔓延の状況によっては例会中止となる可能性があります。その場合は電話か本紙で連絡します。

1. 会場 市民活動センターイルミン

2. 内容 『銀の糸と二つの十字架』より、下村とくさんについて その2 報告者 杉崎一雄会員

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

\*次回の日程調整を行いますので、御自身の予定表をお持ちください。

★みなさんの投稿(お便り)を募集しています! お気軽にお寄せください。お待ちしております!!★

【送り先】染井代表へ郵送(封筒の住所へ)、または三浦会員までメール mkumiko569@gmail.com

# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13.

149

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

## NEWS

号

＊発行責任者：会長・染井佳夫（090-8775-6569）、幹事・齊藤祐司（090-2326-7517）、三浦久美子・会計担当

発行：2021. 9. 9

## 【投稿】 繁田武平と渋沢栄一 杉崎一雄(会員)

NHKの『青天を衝け』は、8月22日飯能戦争で栄一の見立て養子・平九郎が武州越生で戦死したことを放映した。

『翠軒自伝』によれば、武平が栄一と従兄の尾高淳忠に、豊岡の自宅で初めて会った時のことを記録している。時は明治32年春頃、栄一と淳忠は越生黒山の平九郎の追悼慰霊に訪れ、繁田家に立ち寄った。武平は一介の書生で淳忠については何も知らない。

歳は栄一より10歳位上に思われ、爛々の眼光・・・これはただものではない。栄一の淳忠に対する言葉遣いは敬けんの念を極め、「先生、先生」と敬語で語っていた。当時栄一は50歳前後で、我が国一流の大実業家として、声望は遠く海外に鳴り響いていたはず。地位は淳忠の上であり、単に従兄に過ぎぬのに、長上にかしづかれる美しい光景は、ひとかたならず、武平の心琴を鞭打ったという。

栄一に対する初対面の第一印象は、それ以降40年余りにわたって武平の心に残ることであったという。



【上】繁田武平(翠軒) 【下】渋沢栄一(『黒須銀行史』大正九年より)

## 「旧石川組製糸西洋館」「旧黒須銀行」が10月に同時公開されます！！

入間の近代史を象徴する2つの建物が、下記日程で同時公開されます。渋沢栄一や尾高淳忠も発展に関わった日本製糸業の栄華を伝える「旧石川組製糸西洋館」。そして、会社設立時に栄一や淳忠がアドバイスを与えた「旧黒須銀行」の2施設を、1日で見学できるチャンスです！！

**公開日：10月9日(土)・10日(日) 10:00～16:00**

※コロナの影響により公開中止となる場合があります。詳しくは入間市博物館まで ([TEL:04-2934-7711](tel:04-2934-7711))

### ★みなさんの投稿(お便り)を募集します★

購読会員の皆さんの近況や感想などもお待ちしております！！

自己紹介や石川一族の人物エピソードも大歓迎。短くてもOKです！

【送り先】 染井代表へ郵送(封筒の住所へ)、または三浦会員までメール [mkumiko569@gmail.com](mailto:mkumiko569@gmail.com)

期 日 2021年 9月26日(日) 14:00～16:00

『石川家の人々』を読む会次回は…

新型コロナウイルス蔓延の状況によっては例会中止となる可能性があります。その場合は電話か本紙で連絡します。

1. 会場 市民活動センターイルミン

2. 内容 『銀の糸と二つの十字架』より、下村とくさんについて その2 報告者 杉崎一雄会員

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

\*次回の日程調整を行いますので、御自身の予定表をお持ちください。



# 「石川家の人々」を読む会

SINCE 2009. 5. 13.

150

号

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

## NEWS

\* 発行責任者：会長・染井佳夫（090-8775-6569）、幹事・齊藤祐司（090-2326-7517）、三浦久美子・会計担当 発行：2021.10.13

## 【寄稿】石川和助の商船学校 志願と赤松則良

10月3日放送の大河ドラマ「青天を衝け」第29回では、渋沢栄一が立ち上げた改正掛のメンバーに赤松則良が登場しました。石川和助の転機に関りがある人物なので紹介します。

横見中学（1884（明治17）.8.25～）奉職中の和助は、海外で挑戦したい夢を捨てきれず、「繁田満義翁に頼み赤松少将の伝手によりて商船学校に入学を志願」しましたが、「入学試験の通知を受取ったのが遅かったので上京したら試験は昨日済んだといはれて非常に失望した。」（『喜寿のあと』）その後、ついに教師を辞め、1886年一ツ橋の高等商業学校に入学します。学資稼ぎのため、夜は福音会英語夜学校の教師をしたのがキリスト教入信のきっかけとなったのは、ご存知の通りです。

「日本造船の父」と呼ばれる赤松則良（1841-1920）。下級武士の生まれですが、秀才の誉れ高く、長崎海軍伝習所で学び、咸臨丸で勝海舟や福沢諭吉とともにアメリカへ航海しました。幕府の留学生としてオランダで造船学を学び、帰国後は沼津兵学校の教授となりますが、明治政府に出仕。横須賀造船所で初めて日本人だけで軍艦を造りました。1886年、男爵・海軍中將となっています。赤松の長女と結婚し2年足らずで離婚した森鷗外は「あんな善良な人を見たことがない」と語っています。1933年の『豊岡尋常高等小学校郷土調査』には、「赤松則良男の母の墓」が黒須の大行寺墓地にあると書かれており、郷土ゆかりの偉人として知られていたのかもしれませんが。

ゆかりというのは、赤松は繁田満義の一番上の姉の子、つまり甥（年齢は満義の4歳上）にあたるのです。『翠軒自伝』によると、赤松は義兄の榎本武揚と共に繁田家を訪れた際、狭山茶の輸出事業を奨めました。赤松は、今の静岡県磐田市で親族らと共同で茶園を開拓していて、彼らは何度か黒須で栽培や製造を見聞し、黒須からは茶師を派遣してもいます。また、狭山会社のアメリカでの販売窓口になった佐藤百太郎は赤松の妻のいとこであるなど、赤松は狭山会社の世話もしていました。

若い頃寺子屋師匠だった満義は、幾太郎の師でもあります。幾太郎は、和助が師範学校に行く時にも、黒須村から学資を借りられるよう満義に頼んでいます。東京の商船学校（現在の東京海洋大学海洋工学部）は当時官立で、海軍兵籍に入るため学費が無償、定員が少なく、将来は民間外交官の役割も担う高級船員という花形職業に就けることなどから、難関校で知られました。受験資格として紹介者が必要だったのか、当時海軍少将の赤松に頼んだとすると、とても心強かったでしょう。郷土の優秀な人材を送り出そうと、満義も一生懸命だったと思いますが、試験日が過ぎていたというオチは、神様のしわざ？を思わせるできごとでした。

（寄稿：三浦久美子）

『石川家の人々』を読む会次回は…

期日 ~~2021年10月31日~~ 11月7日(日)

11:00～13:00

日程が変更になりました

※10/31は選挙で急遽会場が使えないため、申し訳ありませんが延期します。

1. 会場 市民活動センターイルミン

## 西洋館にあった「北野大茶湯」の掛軸を展示

入間市博物館の常設展で開催中の特集展示「ティーパーティー」で、掛軸を展示中です。間近でじっくり鑑賞できます！

12月5日(日)まで

# 「石川家の人々」を読む会

SINCE 2009. 5. 13.

151

号

入船市立図書館・各光館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

## NEWS

\*発行責任者

幹事・齊藤死司(090-2326-7517)、三浦久美子・会計担当

発行：2021.11.11

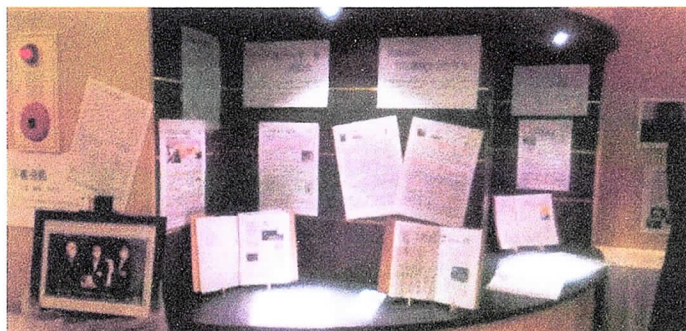
## 染井佳夫会長の逝去

当会の発起人で現会長の染井佳夫先生(満73歳)は病気のため10月17日、ご逝去されました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、これまでのご指導、ご厚情に心から感謝申し上げます。

先生は一昨年からがん治療を続けていましたが、入院以外の時は例会に出席されており、7月例会が最後となってしまいました。突然の知らせに残念でなりません。

10月26日に、セレモニーホールいわさきにて、お別れの会(通夜)が行われました。密を避け、式は行わず、無宗教で営まれました。

会場には、先生が関わった様々な団体の会報や著書、写真などが飾られ、8月に放映されたいるまケーブルテレビのインタビューが上映されました。また、闘病中に書かれた自叙伝の冊子が配られました。会からはお香典をお持ちしました。後になりましたが報告させていただきます。



## 杉崎会員のレポートは次回に

11月7日に開催した10月例会は、参加者5名と少なかったため、予定していた杉崎会員の報告は次回に先送りとなりました。代わりに染井先生のことや今後の会のありかたについて話し合いました。この件についても、次回話をしますので、ぜひご参加をお願いします。次回も今月開催のため、お知らせが間近になってしまい申し訳ありません。

### ★みなさんの投稿(お便り)を募集します★

皆さんの近況やご感想などお待ちしております。染井先生の思い出などもぜひお寄せください。

【送り先】三浦会員までメール [mkumiko569@gmail.com](mailto:mkumiko569@gmail.com)

### 『石川家の人々』を読む会次回は…

期 日 2021年 11月21日(日) 14:00~16:00

新型コロナウイルス蔓延の状況によっては例会中止となる可能性があります。その場合は電話か本紙で連絡します。

1. 会場 市民活動センター(イルミン)
2. 内容 『銀の糸と二つの十字架』より、下村とくさんについて その2 報告者 杉崎一雄会員  
今後の会運営について

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。



# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13.

## NEWS

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須両公民館にもファイルがあり、読むことができます

幹事・齊藤祐司 (090-2326-7517)、三浦久美子・会計担当

152

号

2021.12.10発行

## 下村とくの後半生 従軍看護婦としての活躍・渡米後の活動

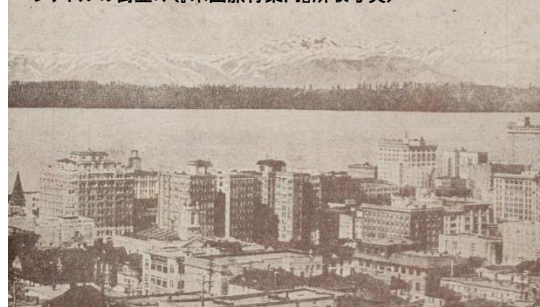
11月例会は11月21日に参加者8名で、10月例会から延期した杉崎氏の発表を行いました。

下村とくに関する報告の第2弾として、著書に沿って説明がありました。16歳のとくは、従軍看護婦として日露戦争の病院船に乗り込み、日本海海戦に遭遇。死を覚悟する状況で初めて神に祈り続けました。杉崎氏は、この経験がその後の人生に大きな影響を与えたのではないかといいます。景気が良かった川越町の石川製糸の看護婦となったとくは、社員石島賢蔵の義弟の写真花嫁となってシアトルへ。戦争で収容所生活という波瀾を乗り越え、アメリカで助産婦として一生を終えました。会員からは、面白かったのでまた本を読み返してみたいなどの感想がありました。

日本海海戦(『実写真都五十年史』所収写真)



シアトルの街並み(『米国旅行案内』所収写真)



上下2点とも国立国会図書館デジタルコレクションより

## 今後について検討 染井会長が亡くなった今後のことについて、10月例会で打ち合わせをした内容をもとに、次の通り検討しました。

まず染井会長の追悼集を出してはどうかとの意見が会員から出されました。内容は、会員や染井会長の知人、関わりのあった方などから追悼文を寄せてもらうなど。これには、編集員や資金をどうするか課題があります。次に、本会の方向性・本会で何を研究していくかを定めることで、具体的には①石川組の活動した時代で繁田家・旧黒須銀行など近代の入間市について。②織物、織維業について。③石川組、旧石川組製糸西洋館に関わった人物(関口なつ、山村学園創始者=石川組製糸川越工場女工に関わる。石川一族で議員だった人の議員活動について)。④染井会長の著作物について。などの意見が出されました。また、役員についても、引き続き検討となりました。

これらの意見を踏まえ、次回の1月例会でもう一度検討します。他の会員の皆さまからのご意見もお待ちしております。

期 日 2022年 1月23日(日) 14:00~15:00

1. 会場 市民活動センター(イルミン)

2. 内容 今後の活動について

**\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。**

**\*次回の日程調整を行いますので、御自身の予定表をお持ちください。**

**\*12月例会として行っていた忘年会は今年も行いません。**

『石川家の人々』を読む会次回は…

**【寄稿】**

## 石川幾太郎の鉄道経営のキッカケは 粕谷義三代議士の衆議院副議長選出

会員 杉崎一雄

武蔵野鉄道の経営に石川幾太郎が本格的に関わったのは大正9年下期(1934)の取締役就任である。明治45年上期から大正4年まで常務、それ以降大正9年上期まで取締役を務めてきたのは衆議院議員の粕谷義三であった。このバトンタッチに何があったのか。

大正9年5月10日、衆議院議員選挙が行われ、初の小選挙区選挙の苦しいばかりの中で、粕谷は9回目の当選の栄を担った。当選を祝うかのように政友会総裁の原敬は粕谷に衆院副議長を命じる。粕谷は6月、浦和町の弁護士会田惣七を訪問し、「民間の営利会社に於ける重役辞任の手続きは如何にしたらよいか」と教えを乞うた。会田は問われるままに手続き法規とその書式を渡した。翌日粕谷が副議長に当選したことを知って、その高潔な人格に感心したという。当時粕谷は、株式会社中央新聞理事、蓬萊生命保険株式会社常務取締役、武蔵野鉄道株式会社取締役等に就任し、実業界でも相当の地位を占めていたのだが、衆議院副議長になると共に、ことごとくこれらの重役を辞し、それ以後、営利会社の重役には就かなかった。

石川幾太郎は、粕谷の武蔵野鉄道株式会社取締役辞任を受け、大正9年下期から取締役、大正10年からは代表取締役社長に就任し、石川組製系に関わる石川氏一族が最大株主となり、9年間埼玉県西部の鉄道を動かしてきた。

どんな言葉で粕谷が幾太郎を説得したのか、知りたいがわかっていない。この時、幾太郎の製系工場は合資会社を株式会社に改め、翌年には三重に8つ目の中村工場を設立するなど、会社は隆盛の時期だった。粕谷は石川組を日本でも有数の企業とした幾太郎の力を買ったのだろう。幾太郎も、企業家としての社会的責任を感じていたのかもしれない。粕谷の政治とカネ、政治家と企業の結びつきは彼の政治姿勢から生まれたものだろう。粕谷のエピソードをひとつ紹介しておきたい。「粕谷は衆議院議長就任時、官舎住まいを勧めるものも多かったが、あの善美を尽くした議長官舎に住んで子供たちに贅沢感を起こさせるのは将来のためにならないからと断り、新宿若松町の粗末な手狭い借家から自分だけ議長官舎に通勤し、家族のモノはなるべく官舎に出入りさせないようにしていた」という。我々は、このような高潔な政治家をかつて誕生させていたことを誇りに思う。(参考：埼玉県立文化会館編『粕谷義三』)



石川幾太郎



粕谷義三

期 日 2022年 1月23日(日) 14:00~15:00

『石川家の人々』を読む会次回は…

1. 会場 市民活動センター(イルミン)

2. 内容 今後の活動について

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

\*新型コロナウイルスの状況によっては、延期する場合があります。



# 「石川家の人々」を読む会

SINCE 2009. 5. 13.

154

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

# NEWS

号

幹事・齊藤祐司 (090-2326-7517)、三浦久美子・会計担当

2022. 2. 22

## 1月例会にて話し合い、決定した事項

「石川家の人々」を読む会の運営については、染井佳夫先生のご尽力によるところが大きく、先生の亡くなった現在、運営を見直す必要がでてきました。昨年 11 月例会と今年1月例会にて話し合い、来年度から次のように行うことが決まりました。

**○例会の開催** 発表者の準備とニュース発行の時間のゆとりを持たせるため、奇数月第 3 日曜日午後 2 時を基本として開催し、ニュースは偶数月に発行する（年6回）。

**○ニュース等の配布** これまでニュース 2 部と例会欠席の基本会員に発表資料、その他領収書等の発送を行ってきたが、次年度からニュース 2 部のみを郵送する。（発表資料を欲しい場合は各自でコピーし、口座振り込みの会費は振り込み証をもって領収書に代えます）

**○会費** 基本会員と購読会員と会費を分けず一律に 2,000 円とし、購読会員の例会出席時の資料代徴収を廃止する。但し、例会に常時出席する方には年間 1,000 円のカンパをお願いすることになります。

**○会場** 有料で基本的には黒須公民館とする。

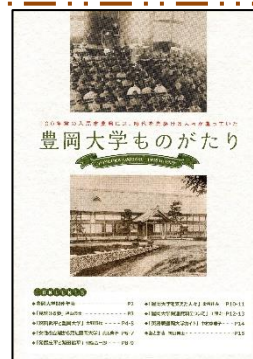
**○役割分担** ニュース制作は発表者がまとめた発表内容と、寄稿などをもとに三浦・齊藤が編集、印刷原稿作成を平田が行う。発送は郵送分を山戸、入間市役所関係を三浦が担当する。会場予約は三浦か長崎。会長は齊藤が引き継ぐ。

**○研究・発表内容** 11 月例会で意見が出された ①石川組の活動した時代で繁田家・旧黒須銀行など近代の入間市について ②織物、繊維業について ③石川組、旧石川組製糸西洋館に関わった人物（関口なつ [山村学園創始者＝石川組製糸川越工場女工に関わる]、石川家から議員となった人物の活動 等）④染井会長の著作物について の 4 項目を、一つに絞らずに扱うことになりました。

## 本の紹介 『豊岡大学ものがたり』

大正 14 年から昭和 14 年まで、豊岡公会堂で開かれた公開講座「豊岡大学」。昨年 12 月、豊岡大学プロジェクト実行委員会が、B5 判 16 頁の小冊子を発行しました。

このプロジェクトには故染井会長も関わっており、昨年夏頃には「もう少し具体的になったら、読む会ニュースで知らせるから」とおっしゃっていたのですが、完成を見ることはできませんでした。染井会長が執筆した「豊岡大学を支えた人々」は、公会堂に寄付した石川幾太郎など 10 人を紹介。また発智金一郎会員の「発智庄平と繁田武平」には、庄平の銅像建立に奔走した一人が教え子の石川民三であったなど、興味深い内容が書かれています。他にも専門家の解説や関連史料など。販売は 1 冊 300 円で、3 月まで市役所売店と入間市博物館ミュージアムショップ（21 日まで）。町屋通りの焙煎コーヒー店 Salute Coffee でも。



## 『石川家の人々』を読む会次回は…

※新型コロナウイルス感染者急増のため、2月例会は休みとし、3月に実施します※

期 日 2022年 3月20日(日) 14:00~16:00 【会場】黒須公民館

【内容】①春日神社改築の寄付者（報告者：三浦久美子） ②染井先生の追悼集について

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13. NEWS

入間市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須公民館にもファイルがあり、読むことができます

会長・齋藤祐司(090-2326-7517)、三浦久美子・会計担当

155

156

合併号

2022.4.29

## 新発見！石川組と黒須銀行の寄付先に春日神社

3月20日黒須公民館で7名の出席で行われた例会では、三浦会員が、昨年翻刻された『現代語版春日のみひかり』（春日神社総代会編）から、明治45年11月に完成した春日神社拝殿（現在のもの）や社地拡張などの境内整備事業に、地元の会社として石川組製糸場と黒須銀行の2社が寄付をしていたことなどを報告しました。社殿の大整備は、全国的な神社整理をきっかけに、村社春日神社存続のため行ったもの。

キリスト教の石川組が寄付とは意外な気もしますが、家憲には「皇室を尊び」や「公共事業に尽力し慈善を行う」があり、地方改良運動や神社中心説などの時代背景を考えれば不思議ではないと指摘。發智会員からは發智庄平の寄付に対する領収証と記念品の写真が紹介されました。寄付者が刻まれた記念碑が境内に現存することも確認。石川組は楓苗木20本も寄付しており、桜だけでなく紅葉の名所だったかもしれません。なお、本書の情報は黒須の繁田進様よりいただきました。



【右】春日神社改築記念碑  
【上】春日神社拝殿



## 「石川家の人々」を読む会 1月定例会での検討事項

1月例会で故染井前会長の追悼集を検討。追悼集を刊行するだけで終わってしまうのは残念で、記念文庫ができないかと忍足会員より提案がありました。追悼集については、今後詳細について検討することになり、記念文庫については難しい事項が多く結論は出ませんでした。染井前会長の資料を埋もれさせてしまうのはもったいなく、入間市博物館にも声をかけ当会とともにこれらの資料を調査し、当会と博物館が分担して必要な資料を保存・活用していく提案が出されました。

また月例会の日程については、奇数月第3月曜日午後2時（会場は原則として黒須公民館）に変更しました。日程にご注意ください。また、次回からテキストに「原町市史」を使います。

期 日 2022年 5月16日(月) 14:00~16:00

『石川家の人々』を読む会次回は…

【会場】黒須公民館 2階会議室

【内容】①「原町市史」より石川組原町製糸所について（報告者：齋藤祐司）

②会計報告 ③染井先生の追悼集などについて

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。



## 保存活用への思い集まる 1年で431万円!!

昨年4月の読む会ニュース 144号で紹介した【入間市文化財保存活用基金】は、開始から1年を迎えました。集まった金額はなんと4,314,185円。市内外の皆様から多くのご寄附がありました。会員のみなさまのご協力に心より感謝申し上げます。引き続き募金やPRへのご協力をよろしくお願いいたします。

### 寄附金状況（令和4年3月現在）

※入間市公式ホームページに掲載されている寄附一覧を引用

寄付者	寄附金額	使用用途
学校法人石川学園狭山ひかり幼稚園様	100,000円	
匿名様	380,000円	旧黒須銀行の復元改修
募金箱（4・5・6月分）	42,844円	
袴田 正毅様	100,000円	旧石川組製糸西洋館の保存整備
匿名様	500,000円	
募金箱（7・8・9月分）	18,346円	
募金箱（10・11月分）	124,000円	
匿名様	2,000,000円	旧黒須銀行の復元改修
匿名様	20,000円	旧石川組製糸西洋館の保存整備
募金箱（12月分）	52,039円	
匿名様	1,250円	
匿名様	73,500円	旧石川組製糸西洋館の保存整備
「ラストサマーウォーズ」制作委員会様	50,000円	旧石川組製糸西洋館の保存整備
募金箱（1.2.3月分）	80,206円	
ふるさと寄附金（令和3年度分）	772,000円	
<b>合計</b>	<b>4,314,185円</b>	

### ふるさと納税では、使い道に文化財保存活用基金を選べます！

入間市外の方は返礼品がもらえます♡ ユニークな返礼品に、「西洋館貸切撮影」（写真撮影のために1時間使える。寄付額34,000円以上）もありますよ♪

### 杉崎会員の講演がありました

#### 小江戸川越「大地の園」の会のつどい

- ・講演「川越のまち—歴史に埋もれた人々」

【講師】杉崎一雄氏（「石川家の人々」を読む会）・西澤堅氏（「大地の園」の会）

- ・伊藤ちるコンサート

4月24日（日）13:00から 川越プリンスホテル 定員70名

# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13.

## NEWS

市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

157  
号

会長 齊藤祐司(090-2326-7517)、会計 三浦久美子

発行：2022. 6. 23

## 石川組原町製糸所 大正時代後半に規模を大きくして原町に進出

5月16日、齊藤祐司氏が新たに原町市史を使用して原町工場について発表を行いました。参加者は久しぶりに参加された吉野氏や初参加の石井氏を含め10名と盛況でした。

発表内容は、福島県原町（当時）の工業の現状、石川組製糸の原町進出の背景、原町での創業、工場操業状況、石川組製糸の経営拡大と縮小の様子についてです。

原町の現状は工業が経済の主力で、中でも製糸業、機織業は古くから行われ、この2業種は工業の中心となっています。原町に明治40年（1907）、初の製糸工場「原町製糸」が創業します。

この頃日本では生糸輸出が大きく伸び、明治44年には同工場が増設されます。ところが、第一次世界大戦の影響で不況になり、原町製糸が債権者にわたる事態になります。

このような中、石川組製糸が原町に進出します。石川保次郎が工場長となり原町製糸の工場を大正3年（1914）に1年間賃貸して石川組製糸原町工場を創業します。続いて大正5年に工場買収、新工場建設して操業していきます。進出できた要因には、大正4年頃から輸出の躍進により日本経済が大きく伸び、石川組製糸は規模を拡大していたことがあります。原町工場も生産を拡大し、原町の顔ともなります。これが昭和初めまで続きますが、昭和恐慌などの影響により、石川組製糸の終末へと向かっていきます。

## 会費のお振り込みをお願いします

例会報告の前に、会計の三浦久美子氏から決算報告と予算案が提案され了承されました。会員の皆さんには予算書・決算書を送ります。

今年度から、会費は一律2,000円。例会とニュース発行は、隔月になります。

これまで購読会員だった方も気軽に例会に来てください。またニュースは、お知り合いにお渡しいただけるよう2部送っていますので、ぜひご活用ください。

<振込先> ゆうちょ銀行 00100-2-791138 イシカワケルトビトヨムカイ

※7月30日までに、お振り込み または 会計三浦へ直接お渡し願います

## 『石川家の人々』を読む会次回は…

期日 2022年 7月11日(月) 14:00~16:00

【会場】黒須公民館

【内容】①渋沢栄一の来訪について（報告者：杉崎一雄会員） ②染井先生の追悼集について

\*例会参加は万全の体調・マスク着用でお願いします。



## “道徳銀行”が誕生した日

7月例会は、7月11日黒須公民館にて参加者6名で開催されました。報告者は杉崎氏。渋沢栄一の繁田家訪問と黒須銀行について解説いただきました。

入間市（旧豊岡町）には、明治33年3月から大正11年1月まで、黒須銀行という普通銀行がありました。この銀行は、庶民の汗と努力によって支えられていたので、渋沢栄一が道徳銀行と名付けたことで知られています。この銀行と関わるきっかけは明治32年6月24日のことで、翌日の25日にかけて、渋沢栄一と義兄の尾高惇忠が、戊辰戦争で振武軍の幹部として官軍と戦い自刃した渋沢平九郎の墓参りにきた時でした。平九郎は渋沢栄一が訪欧の際見立て養子に立てた人物でした。平九郎が自刃したのは黒山三滝の近くでした。

栄一はこの日東京から甲武鉄道、川越鉄道を乗り継いで入間川駅で下車。人力車で豊岡の繁田家に向かいました。繁田家では新銀行設立の相談を受けました。繁田家の提案は、5万円程度の貯蓄銀行の構想で、これに対して渋沢は「もっと業務を拡大して、2～30万円の普通銀行にしたらどうか」と大きな規模の提案をしたのです。日清戦争後の日本進展によって銀行の役割が、融資、手形割引、債券の発行などに比重が高まることを念頭に置いてのことだと思われます。渋沢は辞去する際、普通銀行に一部貯蓄銀行を加味した新銀行設立を提案し、あわせて顧問就任を約束しました。

黒須銀行は、武州銀行に併合されて看板を下ろすわけですが、武州銀行の生みの親も渋沢栄一で、渋沢栄一の力の大きさがうかがえます。（文：杉崎一雄会員）

## 染井先生の追悼について

毎回相談している故染井先生の追悼集ですが、編集協力者や費用などの問題で良い方法が見つからないため再検討します。10月17日は1周忌となりますので、お墓参りも計画しています（時間未定）。一緒に行ける方はご連絡ください。

### 『石川家の人々』を読む会次回は…

期 日 2022年 9月26日（月）14:00～16:00 【会場】黒須公民館

【内容】・「原町市史」より（高篠文明さんご提供の史料を見ながら）

・ 染井先生の追悼集について

\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。

感染拡大の状況により中止する場合は、電話などで連絡します。

## 会費のお振込み、ご寄付もありがとうございます

7月30日まででお願いしましたが、お忘れの方はお早めにお問い合わせいたします。

# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13.

## NEWS

市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

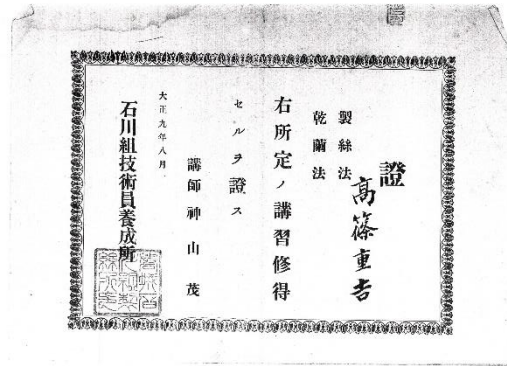
159  
号

会長 齊藤祐司(090-2326-7517)、会計 三浦久美子

発行：2022. 10. 15

## 原ノ町工場の史料から

9月例会は参加者5人でした。原ノ町工場長の石川保次郎（旧姓高篠）の縁者に連なる高篠文明氏所蔵の史料を読みました。高篠重吉は『原町市史』によると、工場の撃剣部に招聘された師範。製糸に関する講習を受けた修了証が2種類ありました。



## 読む会ニュースを合本し、追悼出版に

本会の14年になる活動のあゆみを、簡素な印刷で冊子にする案を検討しました。「読む会 NEWS」を創刊号から合本し、年表や会員の寄稿・あるいは座談会を収録。短い文章で良いので、思い出などを書いてくださる方はご連絡いただくと計画が立てやすいので有難いです。また、WordかExcelの入力をお手伝いいただける方は、次回までに会長かお近くの会員へお伝えください。



**お知らせ** 全国町並み保存連盟 関東ブロック大会 in 入間 が開催されます

武蔵豊岡教会や西洋館、石川洋行の蔵、旧黒須銀行などをめぐるまち歩きと、「市民の力でどこまでできるか！歴史まちづくり」をテーマにしたトークセッション。ぜひご参加ください！詳しくはチラシかHPで

日時 11月19日(土) 10時～16時  
会場 集合：武蔵豊岡教会  
トークセッション：黒須公民館  
参加費 1000円(当日集金)  
※昼食は各自

申込み 11月12日までに、入間市の文化遺産をいかす会 **Fax: 04-2962-3424** (石川洋行)

## 『石川家の人々』を読む会次回は…

期日 2022年 11月21日(月) 14:00～16:00 【会場】黒須公民館

【内容】・「原町市史」より(原ノ町工場と本店工場の見取り図比較など)  
・ 追悼出版について

9月に続き報告者は決めず、各自の興味関心や疑問などを話し合います。前回欠席の方の史料はあります。テキストの「原町市史」を読んできてください。(原町市史が無い方はご連絡を)

**\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。**

**感染状況により中止の場合は、電話などで連絡します。**



# 「石川家の人々」を読む会 SINCE 2009. 5. 13. NEWS

市立図書館・各分館と久保稲荷、黒須町公民館にもファイルがあり、読むことができます

160  
号

会長 齊藤祐司(090-2326-7517)、会計 三浦久美子

発行：2022. 12. 10

## 読む会 NEWS 合本 来年発行へ

11月例会は参加者3人でしたので、冊子の検討と情報交換等を行いました。

冊子発行は来年10月/会員と関係者に無償配布/例会は編集会議も兼ねる/会員の思い出も掲載/A4版196頁・40部程度作成/約12万円を会費から支出 などです。



### 思い出を募集します！

文字数は300～600字程度。書いてくださる方は、**齊藤までメール**でお知らせください。原稿は年明けをめどに出していただき、その後、調整します。  
teadokoro\_3110@yahoo.co.jp

10月17日は染井先生の一周忌。入間霊園にお墓参りに行きました。桜のある樹木葬。生前、金子地区が見渡せる眺めの良い場所で気に入ったのだそうです。妻のみどり様にご案内いただきました。

## 旧黒須銀行を未来へ！ クラウドファンディングに協力

「旧黒須銀行」を修復するためのクラウドファンディングが行われており、市博物館では協力を呼びかけています。（チラシ同封）

**黒須銀行と石川組の関係は？** 幾太郎は、創業者・繁田満義の教え子で、黒須銀行の株主でした。銀行にあった担保の繭を保管した大きな蔵には、石川組の繭が入っていたという話もあります。地元金融機関として、共に成長したのではないのでしょうか。社会貢献に熱心なものも共通で、豊水橋架設・春日神社改築へ両社が寄付しています。

修復ができれば、西洋館や教会などと一体となった黒須の魅力が更に発揮され、賑わいにつながることを期待されます。当会として会費より1万円を寄附することにしました。みなさまもご支援、呼びかけをよろしくお願いいたします。

### 『石川家の人々』を読む会次回は…

期 日 2023年 1月23日(月) 14:00～16:30 【会場】黒須公民館

【内容】・道徳銀行の由来についての中間報告 三浦久美子会員

・「読む会のあゆみ」編集会議①（原稿の進捗について）

「原町市史」のつづきは3月例会で行う予定です

**\*例会参加は万全の体調・マスク着用をお願いします。感染状況により中止の場合は、電話などで連絡します。**

## 「原町市史 11 旧町村史 特別編Ⅳ」の紹介

寄稿 齊藤祐司

(旧)原町市で平成9年度から始まった市史編纂は、町村合併により南相馬市になってからも続けられ、平成20年3月に「原町市史 11 旧町村史 特別編Ⅳ」(南相馬市教育委員会博物館市史編さん係)が刊行されました。

この特別編Ⅳは、994ページで旧町村の歴史を綴っています。石川組製糸原町工場の事柄が、「第一章『街』を希求したマチー原町ー」の「第二節 地域経済の柱ー産業ー三、石川組原町製糸所」で12ページ(+見開き写真1枚)にわたって掲載されています。この内容について項目を追って概略を紹介します。

(一)概要では、【資料にみる石川組原町製糸所】石川保次郎により大正4年に創業し、大正6年に原町支店と改称した。【原型は原町製糸所】明治40年に原町製糸が創業。【石川一族の進出】石川組が大正3年に借受け操業し、大正5年に買収した。

(二)石川保次郎の経営では、【博愛的社風】石川一族がクリスチャンであるため、原町をはじめ各工場の労働条件は良好であった。【クリスチャン石川保次郎】保次郎、夫人りよは信仰に基づく活動を行った。【石川保次郎の社会活動】保次郎が社会活動を積極的に行った。【石川組の品評会】実施した二つの品評会について。【「記念日」の行事】川越工場への勅諭を記念して昭和2年11月に記念祭が行われた。原町工場でも行われた。【災害への対処】二つの災害への対処について。【その他の出来事】大正5年の福島県知事による工場視察、大正11年の「浜三郡工場機関取扱い講習会」など。

(三)石川組に働く女性たちでは、【工女たちの労働条件】大切にされた従業員のこと。【福利厚生と社会教育】工女への健康管理(県内でも数少ない衛生設備・病室)、慰安活動(旅行、映画)、社会教育について。【社会生活と禁酒運動】禁酒運動、原町婦人修養会の講演会などが行われた。

(四)その後の工場では、【田中製糸時代】昭和9年に閉鎖後に田中製糸所が引き継いだ。【片倉製糸の管理下へ】昭和12年に片倉製糸の分工場になった。【その後の施設】戦後1棟の倉庫が残され他工場の繭貯蔵庫になった。

最後に『石川組原町製糸所の女工さんや社員の観桜会』の見開き写真が掲載。

以上の内容で、原町工場の当時の様子を知ることができる資料となっています。

### 『石川家の人々』を読む会次回は…

期 日 2023年 3月20日(月) 14:00~16:30 【会場】黒須公民館

【内容】・道徳銀行の由来についての中間報告 三浦久美子会員

・2023年度の活動について

\*2月例会は参加者2名のため、報告は3月に延期しました。退会や体調不良などで今後も出席者が少ない見込みになりましたので、今後の活動について方向性をだしたいと思います。



## 「石川家の人々」を読む会の休会と解散について

2021年9月に、発足当初から中心だった染井先生が亡くなられてからも、当会の運営方法を検討し、例会を続けてきましたが、今年度は例会出席をされている会員を中心に退会する方や体調面から出席できない方が増えてきております。例会出席は最近では2～3人という状況で、例会の継続が難しくなっています。

3月例会では出席者を中心に今後の会の運営について検討した結果、例会を中断して休会とし、現在進めている読む会ニュース合本の製作を進め、刊行後に会を解散する方針を固めました。今年度の会費については、徴収しないことに決定しました。冊子は秋ごろ刊行し、会員にお届けする予定です。

長年、入会いただいた会員の皆さまや会の運営にご協力いただいた皆さま方に厚くお礼を申し上げます。

- ・※2023年度は冊子の刊行のみの活動になるため、会費は集めず、今の残金で運営します。そのため、会計報告は昨年度と今年度をまとめて最後に行うことにしましたのでご了承ください

### 3月例会報告 「道德銀行」の呼び名はいつから

3月例会は、3人の参加で、三浦久美子氏が「史料にみえる道德銀行の記述」についてレポートしました。「道德銀行」とよばれた黒須銀行ですが、いつ、どうしてそう呼ばれるようになったのか、渋沢栄一が名付けたのか？などの疑問を整理するために、さまざまな史料に出てくる記述を時系列に紹介しました。一番早いのは、銀行が開業した翌年、日本弘道会の総会で、發智庄平から「道德銀行と呼ばれている」との発言があります。その後、黒須銀行は、その活動や「道德銀行」の名で注目されるようになり、「道德銀行」のいわれも次第に整理されてきた様子がわかりました。詳しくは『入間市博物館紀要第15号』をご覧ください。

★5月2日～7日 石川洋行の楽蔵にて「入間市の文化遺産と記憶遺産」展

★5月7日14:00 武蔵豊岡教会にて「会堂100周年記念講演会」

↑どちらも無料・申込不要。西洋館も公開日です。ぜひお出かけください！



★昨年、当会も協力した旧黒須銀行のクラウドファンディングは、329名・593万円のご支援で目標額の118%を達成しました。なお、令和5年度からの修復工事が認められ、令和7年度のオープンに向けて前進することになりました。

## 会員一覧（50音順・敬称略）

当会は、会員 10 名でスタートしました。第 2 回例会には、男性 8・女性 5、年齢は 25～88 歳の会員が集まりました。さまざまな興味関心から石川組のことを知りたいという、主婦・学生・郷土史研究家・元教員・学芸員、それから石川本家の当主をはじめ、親族の方々も加入されました。会員は次第に増え、一番多かったのは平成 30 年から令和 2 年ごろの 34 人です。

いつも例会に参加していたのは、10 人前後ですが、例会内容は毎月発行するニュースでお伝えしました。例会報告とニュース発行、文化祭や生涯学習フェスティバルでの展示を中心とした運営は、各会員の協力と会費・カンパで賄ってきました。

設立から現在までの会員のべ 53 人。太字は 2022 年度の会員です

青木和子、足立京子、安部清子、**石川あき子**、石川アサ子、**石川紘一郎**、**石川三郎**、石川山治、石川幸子、**石川嘉彦**、**石川洋子**、**市川信男**、**稲村貢**、**上田知佐子**、岡野こずえ、岡野真幸、岡野亘、小椋亮太、**忍足ユミ**、**加藤栄子**、葛生翠、栗山貫一郎、黒田みつ、**黒田毅**、齋藤次雄、**齋藤祐司**、**渋谷とし**、**下条幸恵**、**杉崎一雄**、**染井佳夫**、**玉井康夫**、**土屋美恵**、**長崎彩子**、中丸勝美、**袴田正毅**、日比保紀、**東 喜代雄**、**平田光洋**、**藤井のり子**、紅谷みぎわ、**發智金一郎**、**本多秀代**、前川慎哉、前沢幸子、牧野俊造、**三浦久美子**、室田朱実、室山茂子、**山口勝治**、**山戸壽子**、湯本民子、吉田茂雄、吉野房子



## 思い出 会員の寄稿

### 「石川家の人々」を読む会初代会長として

青木和子

この会が 2009 年 5 月 13 日(水)東町公民館を会場に 10 名の会員で発足。会長に青木和子・庶務幹事に染井佳夫・齊藤祐司・会計三浦久美子が選出され、年齢は 25 歳から 88 歳と幅広く、徐々に会員も増えていき早 14 年、機関誌 NEWS が毎月発行されて 160 号を超し、故染井先生の篤き思いが会員各位に引き継がれ存続。まさしく継続は力なりと充実した研究内容が毎回報告されました。その成果を纏めた合本が、事務局担当の齊藤祐司さんと三浦久美子さんお二人で、故染井先生への追悼もかねて上梓へのご尽力下さり感謝の極みです。

そしてこの発行をもって長年続いた『石川家の人々』を読む会は残念ながら閉会となり、今まで参加協力下さった沢山の方々へ心より敬意を表します。有難うございました。

私は石川家一族の石川組製糸創業者石川幾太郎の二女石川きよの孫ですが、何も分からずの状態です。安易に初代会長の役を担うことになりました。その時いつも染井先生が能力不足の私を支えて下さり、毎回会員の様々な視点からの研究発表があり、面白く互いに良き刺激を受けました。お陰で会員相互の研鑽を積むことができ、その活動報告と次回のお知らせなど

季節の花々などイラストも加え欠かさず染井先生が丁寧に編集下さいました。その充実した活動報告を関係者のみならず、多くの方々に読んでいただき、石川家の人々一族も関心もって時折参加し、珍しい講話をしてもらう機会もあり、楽しい交流の集いになり幸いでした。御礼申し上げます。

その後、名実ともに会長に相応しい染井先生がバトンタッチして下さい安堵いたしました。そしてますます活動内容も充実し、研究熱心な会員もさらに増え、様々なアプローチでの研究発表が続き、興味深い事が沢山あり嬉しいことでした。例として石川幾太郎の弟で牧師となった石川和助氏がアメリカ留学の帰国船で一緒になった有島武郎氏との関係について、機関誌 114 号の報告は、108 号・112 号の研究とともに深く浸透し、地元埼玉入間から広い世界へと、貴重な宝の発見探求となっています。

初代会長時代のハイライトは、国道 16 号拡幅工事計画により、武蔵豊岡教会が老朽化した会堂を保存か新築か教会内で審議の時でした。教会の歴史は石川組製糸創業者の石川幾太郎の父親石川金右衛門が、1889 年 7 月 2 日入間市の長泉寺境内にあったと言われる霞座で横浜から来たドレーパル宣教師によって洗礼を受け教会の初穂となったことに由来し

ます。その翌年には石川一族が次々と洗礼を受け、その後石川組製糸の発展に繋がりました。そして多くの工女さんも日曜日教会の礼拝に参列、そのため会堂が狭く 100 年前埼玉で唯一ヴォーリス氏設計による会堂が 1923 年 5 月 6 日献堂されました。その年 9 月 1 日に関東大震災がおき 2011 年 3 月 11 日には東日本大震災と二つの大地震に遭遇も無事耐え会堂は 88 年守られました。この貴重な会堂を歴史的文化的遺産として保存へと市民に広く啓発たく、2011 年 5 月 8 日黒須公民館で山形先生と内田先生を講師に迎えて講演会を開き会場は超満員。熱気あふれる討議がなされ教会にも影響あり、後に会堂の曳家保存へ方向が変わっていきました。この事は、私たちの会と新たに生まれた入間市の文化遺産をいかにす会のコラボで実現し感慨深いものがあります。そして 2014 年 9 月国道 16 号に面して曳家耐震保存再生の新会堂が完成し献堂式が挙行。多方面から注目され地域のシンボルタワーとして存続し有難い事です。

2023 年 5 月 7 日には、武蔵豊岡教会でヴォーリス献堂 100 周年記念礼拝と講演会記念展示会も開催され、盛況でした。感謝。

回想としては石川家で文学的才能のあった詩人石川信雄氏の短歌集を復元された妹石河輝子様のお宅訪問です。2013 年 3 月 27 日桜の咲く季節、染井先生の車で奥様と石川信雄の研究者忍足ユミ氏の 4 人で入間から町田までドライブ、輝子さんから直接兄信雄氏と穰治氏に関する貴重なお話を伺い、写真や資料なども見せて頂きました。機関誌 47 号特集

版として裏面に掲載。初めてお会いした石河輝子様も亡くなり染井先生と共にご冥福をお祈りし感謝と哀悼の意を表します。 合掌



2011 年 5 月 8 日、黒須公民館での講演会開催時、石川家の人々読む会の会長として青木和子挨拶。左は入間市の文化遺産をいかにす会長岡野亘氏。



2013 年 3 月町田の石河輝子様訪問にて。左から、忍足ユミ氏、青木和子、石河輝子様の二女鈴木ひとみ様、石河輝子様、染井佳夫先生



同じく、石河輝子様のお宅で、貴重な資料確認中の石河輝子様と染井先生



染井さんと出逢ったのはちょうど今から 50 年前、1973 年 4 月の豊岡中学校の職員室であった。彼は社会科、私は国語科の新採用で、日本史の好きな私は近世史が専門という染井さんとは、転入も含めて、八人いた豊中の新人の中でも特に話が合ったのだった。

ある日染井さんは顔を輝かせて、「最近転居した黒須団地の近くに西洋館が建っていて、近くの人に聞いたら、昔このあたり一帯には製糸工場があって、西洋館もその関係のものらしいんだ」と告げた。

別の日には、担任の生徒の祖母がその工場の女工だったので話を聞いてきたと報告してくれた。

入間にやってきて間がない染井さんはこうやって瞬く間に地域に溶け込み、石川製糸研究を始め、じつに様々な情報を私に伝えてくれたが、慣れない仕事をこなすのに必死の私は、あまり関心が持てなかった。同じころ『武州世直し一揆資料』を手に入れてきた染井さんに誘われて読む会を始めていたが、私はそれも負担になってやめてしまった（後年短歌連作「上名栗村義民伝」としてまとめたが）。

その後も染井さんは興味の赴くままに様々なことに挑戦しては成果をあげていたようで、時々我が家を訪れては新しい体験を愉快に語って帰るのだった。そういえばわが夫も染井さんが紹介してくれたのであった。

子どもが生まれたり、別の学校に異動したり、中古住宅を買ったり、建て替えたり、互いに起き

る出来事の折々に染井家と我が家の行き来は続いていた。

染井さんとの交流が再び頻繁になったのは今から二十年くらい前だったろうか。

短歌を学び始めた私が、様々な短歌関連の資料を読むなかで石川信雄という歌人が石川製糸一族の一人であることを知り、かつて熱心に研究していた染井さんにあらためて連絡したことからであった。

金子中学校校長を定年退職した染井さんは、読書人サークルや映画人サークルなどの趣味の会を立ち上げるとともに『石川家の人々』という石川製糸会社一族の手で作られた分厚い一書を読む会を始めていた。

石川家当主嘉彦さん、青木和子さん、石川洋子さんら一族、博物館職員の三浦さん、齊藤さん、平田さんを中心に続々と増える会員の方々が交代でレポートを勤める例会は刺激的で実に愉しかった。この学習会を牽引したのが染井さんである。入間市博物館アリットでの「石川製糸展」開催と成功はある意味で「読む会」が支えていたと言えるだろう。

私は「文学」に関するジャンルで参加協力した。会期に間に合うように同人誌「滄」に連載していた石川信雄の



評伝を『天にあこがる—石川信雄の生涯と文学』として刊行できたのも、染井さんの力が大きかった。マルチ人間で音楽、美術、演劇等を愛する染井さんは、文学にも造詣が深く、石川信雄に親愛の情を寄せて、研究者の視点からの確に資料を集めてアドバイスしてくださったのだ。

全力を尽くしたあと、私は虚脱感に陥って「読む会」の活動から離れていたが、染井さんは憑かれたように精力的に活動をつづけ、ついに倒れてしまった。まだやらなければならないことがあるから「死に急いでもやります」と書かれている最後の年賀状を読み返す度に、想像を絶する治療の苦しさに耐え、調査や執筆に没頭しようと退院を待ちわびていた姿がまなうらに浮かぶ。その日がくるのを私も祈っていたのに。

名誉や栄達を求めず、目の前の興味関心に遊び心のままに全身で取り組む愉快で偉大な人であった。

### 蓼科の思い出

染井さんの奥様のみどりさんのお誘いで昨年（2022年）の秋の終わりに蓼科に行った。

みどりさんの父君の山荘を初めて訪れたのは染井家も我が家も子どもがまだ小さかったころのこと以来何度もご厚意にあまえて楽しい山の遊びを満喫させていただいたものだ。二男がまだよちよちの赤ん坊だった時、私はどうしても八島湿原を散策したくて、眠っている二男を喫茶店で読書する佳夫さんに預けてみどりさんたちと出かけた。気かけながら戻ってみると、二男はジュースを飲んでいたらほっぺには涙がひとしずく光っていた。

「大変だったよ 泣かれちゃってさ」と佳夫さんは困惑気に笑い、私は二人への申し訳なさで立場が無かったが、染井佳夫さんはいつもこんなふう鷹揚でこだわりがなく、優しくかった。

子どもたちが巣立ってからは四人で山荘を基地にして上高地や柵池自然園、松本や長野、小布施の町などたずね歩いたものだ。そういうとき、たいいてい佳夫さんは勝手にひとりで行ってしまい、こまごまと気を配ってくれるみどりさんが、あとで夫君を叱責したりするのだった。

生前に佳夫さんは李朝白磁を発見して日本に紹介した浅川兄弟の資料館（山梨県北杜市）に、私たち夫婦を連れて行きたいとことあるごとに言っていた。みどりさんは今回それを実行してくださったのだ。資料館の数々の展示品を見ていると佳夫さんがすぐそばから語りかけるような気がした。

車山登山や八島湿原散策に、過ぎ去った日々の他愛ない会話が、思い出とは言えない生々しさで蘇ってきた。かけがえのない時間の集積が放つきらめき。

染井夫妻との出会いのおかげで豊かな人生を送ってこられたとつくづく思っている。

合掌



2021年3月 近くの山で



## 染井佳夫先生との思い出

平田 光洋

私が染井先生と初めてお会いしたのは、異動により入間市博物館に配属された平成 28 年 (2016)の事になります。

博物館では、市内の小学 6 年生が授業で来館した際、火起こし体験を実施しており、私はその指導を担当していました。染井先生は、私が外で授業の準備や道具の補修をしていると、必ず声をかけて下さいました。

その頃の私は、石川組製糸の歴史をほとんど知らず、「『石川家の人々』を読む会」にも参加していませんでした。しかし、翌 29 年に特別展「石川組製糸ものがたり」の担当となり、図録の編集などに携わるようになって、読む会にも入会し、先生から石川組に関する様々な知識を授けていただきました。また、資料調査や関係者への聞き取りにご一緒する機会も増えました。

その中でも特に印象深いのが、『遙かなる石川製糸』を著した関口なつ氏のお墓を訪ね、名栗の奥まで 2 人で向かった時の事です。石川組展の図録をご子孫の方に手渡しするつもりでしたが、お墓のそばにある家に人の気配がなかったため、消息を調べ回り、最後は飯能市役所の福祉部門を通じて図録をお渡しする形となりました。

その日、私はネクタイを締めた背広姿で車を運転し、先生はノーネクタイに上着を羽織って助手席に座り、2 人で人気のない山里や市役所で聞き込みをする様は、さながら刑事ドラマの一場面を彷彿とさせました。帰りがけ、先生がお土産に買ってくださった「四里餅」と相まって、とても良い思い出となっています。

染井先生は、生意気な口を利く私の話も真摯に聞いてくれ、様々なアドバイスをしてくださいました。先生のおかげで、私も石川組製糸に関する知識を深める事ができ、今では自分の講座で市民の方に説明ができるまでになりました。

令和 2 年 8 月、高麗神社で開催された「第 5 回高麗偉人伝 石川組製糸と創業者石川幾太郎展」の際、私は博物館が所蔵する石川組関連資料や解説パネルの貸出しを担当しました。展示初日に会場を訪問した際、染井先生のトークセッションに参加したのが、先生の講演を拝見した最後の機会です。御病気が発覚し、手術のために入院する事が決まる中、時間を超過しながら熱く語る先生の姿からは、ご自身の研究に対する強い思いが伝わってきました。

先生が亡くなって早くも二年が経ちます。私は今年 4 月に異動し、市役所の商工観光課勤務となり、身辺が大きく変わりました。染井先生との思い出を懐かしみながら、今後も一研究者として先生の意思を引き継いでいきたいと思えます。



平成 30 年 11 月 12 日  
甲府の石川三郎氏宅を訪問した際の記念写真



▲例会の様子

**『石川家の人々』**は、石川嘉彦氏・石川三郎氏・阿部正和氏ら石川家一族の方々により編集され、平成14年に発行された書籍です。その内容は、石川家の中興の祖とも言うべき石川幾太郎や、その後の一族の伝記・記録などを主としています。

平成21年5月、この書籍を読み、一族や地域の歴史や文化を学ぼうと、「石川家の人々」を読む会(青木和子会長)が発足しました。メンバーは地域史に興味のある方々や石川家親族の方などを中心とし、現在は、17歳から89歳まで約20人を数えます。

活動は、「石川家の人々」を読み進めながら、月に1回の例会を開催しています。この例会の様子を写真に収めました。

会では、間もなく「石川家の人々」を読み終えるため、現在、今後の活動について検討中とのこと。皆さんのさらなる活躍が楽しみです。



▲発見された生糸の束

会で、輪番制で各自の研究成果をレポートするというもの。石川家親族の方から直接「裏話」を聞いたり、レポーターが「サブレイズ」を用意してたり、毎回、笑い合い、楽しみながら、すでに17回の例会を重ねています。さらに、そのような中で、石川組製の生糸の束が発見され、当時の写真が出て来たりと、貴重な発見も多々あったということです。



▲会員最年少の岡野真幸君(17歳)がレポートを朗読中

**「石川家の人々」を読みむ会**

← 広報いるま  
2010年10月1日号  
特集「西洋館をご存知ですか？」で取りあげられました

第一寄町ビル2F TEL 048-521-0819 FAX 048-521-1540

# 「石川家の人々を読みむ会」

西方  
見聞録



▲前代会長 幹事の染井佳久さん

## 石川組製糸(入間)の資料研究



「『石川家の人々』を読みむ会」のメンバー

# 工女の歌や芳名解読

明治初年から昭和10年代にかけて操業し日本有数の製糸会社「石川組製糸」が入間市にあった。その創業者、石川幾太郎(1855-1934)の子孫らが2002年7月、一族の人々による活動「継業や製糸場女子たちの生活を記した貴重な回想録(史料集『石川家の人々』を刊行非売品)した。この本や傍証史料を読み、同市新久の元東町公民館染井佳久さん(88)らが09年5月、石川家の親族、関係者、郷土愛好家ら有志(呼び掛け「資料『石川家の人々』を読みむ会」)を組織した。月1度の例会は毎月13日に31回を数える。(5/16)

1工場(福島・盛岡・三重県に各1工場となり、日本第6位の製糸会社に成長した。しかし、関東大震災で横濱に保管した生糸が、瞬のうちに灰じんととなり、昭和恐慌のあおりで1937(昭和12年)に倒産している。

タント糸の豊岡教会が竣工している。

会社規模は、入間市域に工場、狭山市に工場、川越市にタント糸の豊岡教会が竣工している。

「石川家の人々」を手分けして読み込んだ。テーマには「石川幾太郎の生きた時代と石川組製糸の盛衰」「石川組製糸の規模・経営上の特質」「キリスト教精神に裏付けられた企業・家族経営」をテーマに、毎月1回の例会を開き、主に久保福留(昭和12年)に倒産している。

「読む会」のメンバーは毎月1度例会を開き、主に久保福留(昭和12年)に倒産している。

そうして市に、福留の石川本家を訪れた「芳名帳」が発見された。1918(大正7年)から98(平成10年)まで80年間、石川家を訪れた約280人の著名人が記帳作家の染井小波軍人の東郷平八郎、社会運動家の川島雄三らかを連ね、現在「読む会」が解読、記録している。

「人々」を解読した「読む会」のメンバーは、児童文学作家の打木村浩が石川組の工場内をつつた天地の画、も精読した。川越工場に勤めた関口なつさんの体験記、通かなる石川組系から正詩の歌謡曲や替え歌で歌った王女の関係を小説にも収録した。

幾太郎の一族でもある幹事の染井さんは、「石川和助牧師」と埼玉の産婦運動家をめぐった研究課題があり、会員とでも研究を進めていきたいと意欲的に語っていた。

埼玉新聞 →  
2011年12月22日  
NEWS32号によると、4時間ほどの丁寧な取材でした。  
文中「幾太郎の一族でもある幹事の染井さん」とありますが、後日訂正記事が出されたそうです。





2017年  
**10/21(土)~12/10(日)**  
開催時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

**人間市博物館 AIBA**

【休館日】 10月23日(月)、24日(火)、30日(月)、11月6日(月)、13日(月)、  
20日(月)、24日(金)、27日(月)、28日(火)、12月4日(月)

【観覧料】 一般 200円、大学生以下無料  
※ 常設展示は別途観覧料が必要となります。  
※ 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳をお持ちの方  
およびその介護者は無料。

【無料観覧日】 11月1日(水)「市制施行記念日」、11月14日(火)「埼玉民の日」

# ものがたり 石川組製糸

1893~1937

アリットフェスタ 2017 特別展



「おかせぎなせいの  
石川組本庄工場女子たちのあじろの画像」

協力：「石川家の人々」を讀む会・人間市の文化遺産をいが学会・NPO法人人間市文化創造ネットワーク・さい  
多摩シタックライフ21・人間市博物館ボランティア会  
後援：人間市観光協会・人間ケーブルテレビ株式会社・打木村治の自伝的小説「天の國」「大地の國」人間地

## 石川組製糸ものがたり

2017年10月21日~12月10日

当会が企画段階から参加し、資料整理や原稿執筆も会員が協力しました。期間中のイベントでは、染井会長による講演会、寄附講座として「官営富岡製糸所長 速水堅曹の活躍」、会員による来場者への展示解説を行いました。新聞各社に大きく取り上げられ、4800人を超える方が来場。関係者も多く訪れ、イベントも大いに盛り上がりしました。図録は売り切れ、増刷となりました。

### 【石川家の人々】

平成4年(1992)12月、『石川家の人々』と題する完成図録が刊行されました。...  
協力：「石川家の人々」を讀む会

平成17年(2005)11月に出版されました。...  
「石川家の人々」を讀む会

### 「おかせぎなさい」

石川組製糸本庄工場内で編み上げていたおかせぎの図録です。...  
関連イベント

- 講演会**
  - 11月18日(土) 13:30~15:30 会場：人間市立中央公民館
- 現場見学会**
  - 11月21日(土) 13:30~16:30
- 図録解説(キヤットレポート)**
  - 10月21日(土)、11月23日(水)、12月3日(日)

人間市博物館 AIBA TEL:027-2921-7711

## 編集後記

染井先生の追悼集を…という話題から、検討の末、「石川の人々」を読む会 NEWS の合本を中心に、会のあゆみをまとめよう、ということになりました。大量の NEWS はデータがほとんど無かったので、發智金一郎氏がスキャンしてくれました。幸い染井先生が毎回の活動を年表にまとめたものが途中までありましたので、それを使わせていただきました。また、3人の方から会の思い出を寄稿してもらいました。

例会の参加者が体調の悪い方が多くて少なくなっていましたので、編集会議も、校正もあまりできずに作ることになりました。抜けている事項や誤りがあるかもしれませんがお詫び申し上げます。

本書が会員の皆さまには思い出や記念に、また、これから石川組に関心がある方や、石川組を知らない方にとって、いくらかでもお役に立つことがあれば幸いです。

(三浦)



故染井会長のお墓参り 2022.10.17

金子木蓮寺の瑞泉院にある人間霊園の樹木墓にて

右から發智・杉崎・染井みどりさん・忍足・藤井・山戸・齊藤・三浦

追悼染井佳夫先生

**「石川家の人々」を読む会 14年のあゆみ**

発行日 2023年10月30日

編集・発行 「石川家の人々」を読む会



